

平成25年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

地域外の人々との活発な交流を通じて元気な地域を目指すむらづくり

○集団等の名称 波瀬むらづくり協議会 (代表 福井 弘)

○所在地 三重県松阪市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

- ① 松阪市は、三重県のほぼ中央に位置しており、東は伊勢湾、西は奈良県に接している。総面積は623.77km<sup>2</sup>であり、県内では津市に次いで2番目に広い。
- ② 協議会が存在する松阪市飯高町波瀬地域は、市の西端に位置し、周りを1,000m級の山々に囲まれた山間地域で、面積の9割以上を山林が占めている。我が国でも有数の良質材の一大産地で、「波瀬林業」として全国的に知られている。

・むらづくり組織の概要

- ① 昭和56年7月に、a. 林業における課題解決、b. 林業以外の他の産業の発掘、c. 希望の持てるまちづくり、d. 行政との連携の4つの問題意識を持って、地域の人々が「波瀬地域開発推進協議会」を設立した。
- ② その後、年々増加する課題を解決するため、「自分達で出来ることは自分達でしよう」を合言葉とし、波瀬地域開発協議会を前身として平成19年7月に「波瀬むらづくり協議会」を設立した。
- ③ 協議会は、波瀬地区の全住民633名で構成されており、課題別に6つの部会を組織して積極的な取組を行っている。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 大阪府から波瀬に移住した住民が、平成15年に地区内に自生しているクレソンに気付き、その後、協議会の産業部会長が中心となって商品化を進め、現在では、近隣のホテルや東京の百貨店などに出荷し、平成24年の販売額は約620万円に上っている。
- ② 地区の遊休農地を再生し、約0.5haをクレソン栽培に活用するほか、約0.5haを野菜、麦等の畑としてIターン者に無償で貸し出しており、今後も遊休農地の利用希望者に対する貸出しを進めることとしている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 福島県の子供たちを波瀬地域に迎え、自然の中で楽しんでもらうため、平成24年度からサマーキャンプを開催し、被災地支援に取り組んでいる。
- ② 関西学院大学の学生と連携し、体験学習プログラムの作成や、波瀬地域のむらづくりに関する意見交換を行っており、今後も引き続き学生の取組をむらづくり活動に反映させることとしている。
- ③ 定住促進の取組により、13組のIターン者が波瀬地域へ移住したほか、関西学院大学の卒業生が隣町に移住し、波瀬地域のサポーターとして活躍している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

当該協議会の取組は、地域の様々な課題を解決するため、地域外の人々との活発な交流を通じて地域の活動を進展させているものであり、全国のむらづくり活動の模範となり得る事例である。